

道徳教育の現状と課題、改善の方向性（検討素案）【見え消し版】
（教育課程部会等の審議を踏まえて再整理したもの）

1. 現状

- 道徳教育は、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かすことなどを通して主体性のある日本人を育成するため、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを目標とし、学校の教育活動全体を通じて行われている。
- 小・中学校においては、そのかなめとしての道徳の時間を設け、各教育活動における道徳教育との密接な関連を図りながら、計画的、発展的に道徳的価値（及び人間としての生き方：中学校）の自覚を深め、道徳的实践力を育成することを目標としている。
高等学校においては、公民科や特別活動のホームルーム活動を中心に人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことに重点を置いている。
- 道徳の内容は、主として「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の4つの視点から捉え、小学校第1・2学年15項目、第3・4学年18項目、第5・6学年22項目、中学校23項目の内容を整理して示している。

2. 課題

- 子どもの心の成長にかかわる現状を見ると、子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、子どもの心の活力が弱っている傾向が指摘されている。また、社会参画への意欲や態度の形成が求められている。
- 道徳の時間については、その指導が形式化して実効が上がっていないとの指摘や、学年が上がるにつれて児童生徒の受け止めがよくないとの声がある。
- 学校や学年の段階等を踏まえた道徳教育の重点がみえにくく、教育活動全体を通じた指導や、道徳の時間を含めた相互の関連が十分でない、教師が理解しにくいものや指導しにくい内容があるとの指摘がある。
- 高等学校の道徳教育（在り方生き方教育）は、教育活動全体を通じて行うこととされているが、そのことを意識した指導が十分にはなされていないとの指摘がある。
- 道徳教育に取り組む体制を一層充実し、家庭や地域社会と一体となって推進すべきとの声がある。

3. 改善の方向性

- 小・中・高等学校の道德教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情をもち、主体的、自律的に生きるとともに、他者とかかわり、社会の一員としてその発展に貢献することができる力を育成するために、その基盤となる道德性を養うことを重視する。
また、発達段階や社会とのかかわりの広がりなどの児童生徒の実態や指導上の課題を踏まえ、学校や学年の段階ごとに、道德教育で取り組むべき重点を明確にする。
- 道德の時間における児童生徒の受け止めは、小学校と中学校では相当に異なっていることから、幼児期や高等学校段階での改善を視野に入れつつ、より効果的な教育を行うために、小学校と中学校の指導の重点や特色を明確にする。
- 高等学校においては道德の時間は設定されていないが、社会の急激な変化に伴い、人間関係の希薄化、規範意識の低下が見られる中で、高等学校でも、知識等を教授するにとどまらず、その段階に応じて道德性を養い、人間としての成長を図る教育の充実を進める。
- 学校全体で取り組む道德教育の実質的な充実を図る視点から、道德教育の推進体制等の充実を図る。
- 児童生徒の道德性の育成に資する体験活動を一層推進するとともに、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体制や実践活動の充実を図る。

4. 改善例

- 道德教育の指導内容について、児童生徒の自立心や自律性、生命を尊重する心の育成をどの段階も通した重点として押さえるとともに、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度などを育成するといった観点から、学校や学年の段階ごとに取り組むべき重点を示す。特に人間関係や集団の一員としての役割や責任などを実践を通して学ぶ特別活動をはじめとして各教科等がそれぞれの特質を踏まえ担うものについても明確にする。
また、道德教育の内容項目について、学校や学年の接続性や発展性を踏まえて、分かりやすくする。
- 小学校における道德の時間においては、自己の生き方及びその生きる上で~~の~~基盤となる道德的価値観の形成を図る指導を徹底する観点から、低学年では、幼児期からの教育との接続に配慮し、例えば、基本的な生活習慣や善悪の判断、きまりを守るなど、日常生活や学習の基盤となる道德性の指導や感性に働きかける指導を重視する。また、中学年では、例えば、集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合うなど、体験や人間関係の広がり
に配慮した指導を重視する。さらに高学年では、中学校段階との接続も視野に入れ、他者との人間関係や社会とのかかわりに一層目を向け、相手の立場

の理解と支え合い、集団の一員としての役割と責任などに関する多様な経験を生かし、夢や希望をもって生きることの指導を重視する。特に高学年段階から同じテーマを複数の時間にわたって指導するなど、指導上の工夫を促進する。

- 中学校における道徳の時間においては、思春期の特質を考慮し、社会とのかかわりを踏まえ、人間としての生き方や社会とのかかわりを見つめさせる指導を充実する観点から、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導を重視する。その際、法やきまり、社会とのかかわりなどに目を向ける、人物から生き方や人生訓を学んだり、自分のテーマをもって考え 討論したりするなど、多様な学習を促進する。

また、中学校は教科担任制であり、複数の教員が生徒の教科等の指導にかかわることを生かして、学年や学校の協力的指導体制による展開を重視する。

- 高等学校においては、高等学校の全教育活動を通じて道徳教育が効果的に実践されるようにするため、学校としての指導の重点や方針を明確にし、道徳教育の全体計画の作成を必須化するとともに、各教科や特別活動、総合的な学習の時間がそれぞれの特質を踏まえて担うものについて明確にする。

また、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、生徒が人間としての在り方生き方にかかわる問題について議論し考えたりするなどしてその自覚を一層深めるようにする観点から、中核的な指導場面となる「倫理」や「現代社会」（公民科）、「ホームルーム活動」（特別活動）などについて内容の改善を図る。

- 特に小学校高学年や中学校の段階で、法やきまり、人間関係、生き方など社会的自立に関する学習において、より効果的な指導を行うため、道徳の時間及び各教科等それぞれで担うものや相互の関連を踏まえ、指導方法や教材などについて工夫することが必要である。~~また、情報化の進展を踏まえ、発達の段階に応じた情報モラルの取扱いにも留意する必要がある。~~

- ＝道徳的価値観の形成を図る観点から、書く活動や語り合う活動など自己の心情・判断等を＝表現する機会を充実し、自らの道徳的な成長を実感できるようにする。

- 社会における情報化が急速に進展する中、掲示板への書き込みによる誹謗中傷やいじめといった情報化の影の部分に対応するため、発達の段階に応じて情報モラルを取り扱う。

- 学校教育全体で取り組む道徳教育の実質的な充実の観点から、道徳教育主担当者を中心とした体制作りの設置、実際に使える具体性のある全体計画の作成、小・中学校における授業公開の促進を図る。

- 児童生徒の道徳性の育成に資する体験活動や実践活動として、例えば、乳幼児等と触れ合う体験、生命の尊さを感じる実体験、小学校における自然の中で

の集団宿泊活動、中学校における職場体験活動、高等学校における社会奉仕体験活動などを推進する。

- 家庭や地域社会と一体となった「早寝早起き朝ごはん」等の生活習慣や礼儀、マナーなどを身に付けるための実践活動などを推進する。また、「殺すな、盗むな、うそを言うな」といった道德教育の最も根源的な課題を社会全体で考えていくことが大切である。